性同一性障害の伊藤さん 実体験を講演

同じ悩みの人 応援したい

心と体の性が一致しない性同一性障害の当事者で、空知管内栗山町に住む伊藤純さん（35）が18日、自らの体験について初めて講演する。伊藤さんは「正しい知識を広めると共に、同じ悩みを抱える人を応援したい」と願っている。

（北里優佳）

伊藤さんは現在、札幌の大学で心理学を学んでいる。講演会を開くきっかけは、大学の友人に誘われて、ニューハーフバーに行ったこと。ニューハーフには否定的な思いを抱いていたが、実際はエンターテインメントとして見応えがあり、頑張っている姿を見ながら、多くの人に性同一性障害への理解を広めようと決心した。

男性として生まれた伊藤さんだが、物心付いた時から、女の子と遊ぶことが多かった。「立派な男の子にしたい」と考えた家族に勧められ、剣道を習ったり、知り合いの美容師に髪を短く切られたりしたこともあったが、違和感を抱き続け、自殺も考えた。

18歳で勘当同然に家を出たが、結婚や出産など「普通の生き方」ができないことに苦しみ続け、「札幌を離れて暮らそう」と思い、23歳で栗山町に移った。「性同一性障害」と診断されたのは、25―26歳のころだった。

長沼で18日 「地域で共に暮らす方法を」

地方での生活は、想像していたより大変だった。履歴書の顔写真と性別が一致しないため、仕事が見つからない。プライバシーについて露骨に聞いてくる人もいた。そんな状況は、伊藤さんが、自ら積極的に地域に飛び込んでいくことで変わった。

町内のスポーツ大会に参加を申し込んだ時のこと。男性チームに参加を断られた伊藤さんを見て、女性チームが声を掛けてくれた。手工芸や語学などの講座にも進んで参加した。「近所の人が野菜をくれたり、普通の女性として生活できることがうれしい」と話す。

学生生活でも、「君」付けでの出席点呼や体育の時の着替えなど困難はあったが、一つ一つ声を上げ、友人の応援も得ながら、克服していった。

講演会の会場は、伊藤さんの思いを聞いた主治医で隣町の長沼町でクリニックを経営する高塚直裕医師が提供した。高塚医師は、「同じ悩みを持つ人を手助けしたいという強い思いを感じた」と応援している。

伊藤さんは、「社会にはまだ偏見があるが、これまで多くの人に支えられてきたことを伝えたい。差別の実態だけを訴えるのではなく、どうすれば共に暮らしていけるかを考えていければ」と話している。

講演会は、18日午後3時から、高塚医師のボロナイクリニック隣の小ホール「ポエティカ」（長沼町幌内）で。参加費500円。参加申し込みや会場案内は、同クリニック☎0123・84・2864かホームページhttp://hokkaido-shinri.web.fc2.com/へ。

「自信を持って『普通に生きる』ことの大切さを知ってほしい」と話す伊藤さん

わせ・申し込み☎011・672、0122・644、ファク272・807のホームページ//www.atlas も申し込みで

■映画上映 れる白白―志 劇」

18日午後1 幌市教育文化 区北1西13）。 4月の鹿児島 ぐり、同県志布 志布志市）の住 法違反に問わ に12人全員に 出た「志布志事 にしたドキュ 映画（日本弁護 製作）。上映後 逮捕された同 信一さんや、 方面本部長の ん、弁護士の んらによる講 ん）を行い、冤 い）の背景を訴 加費500円 へ。問い合わせ 目フォーラム 050・752 5、shimin-m kpa.biglobe.n